

経営比較分析表（令和6年度決算）

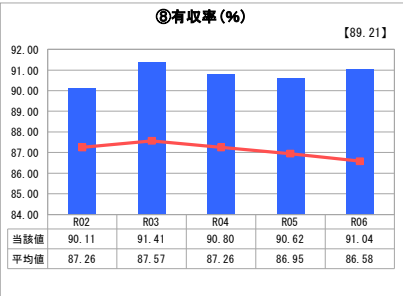
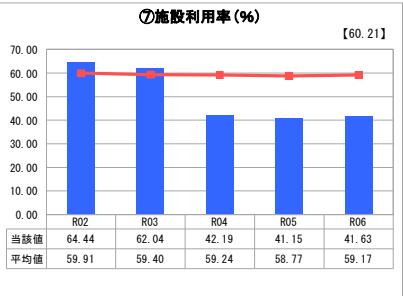
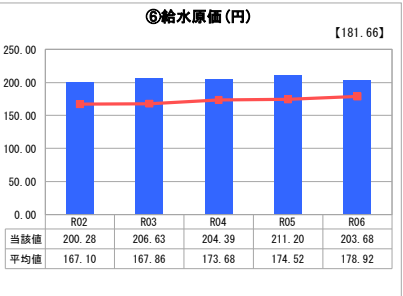
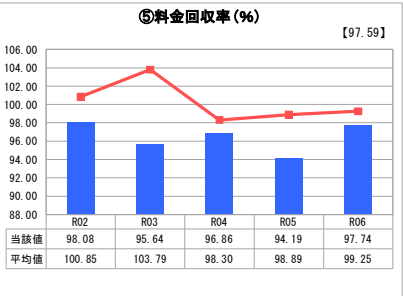
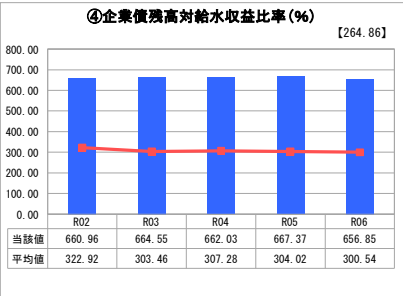
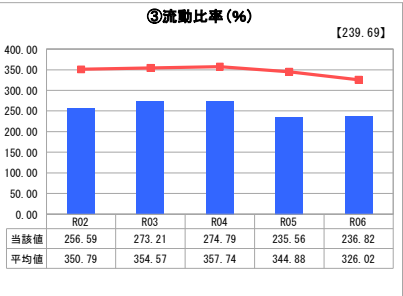
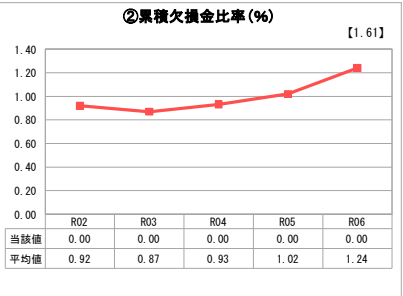
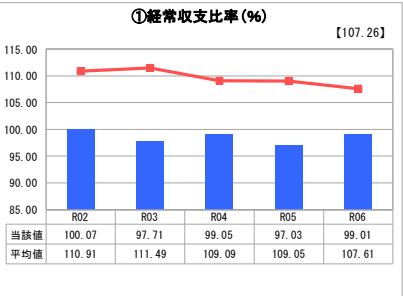
石川県 加賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	46.17	99.99	3,251	

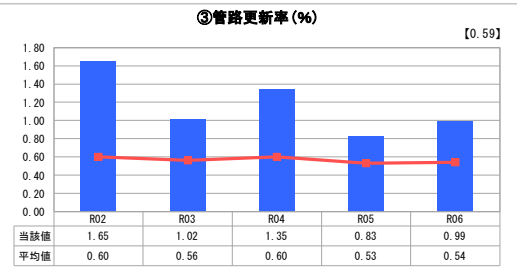
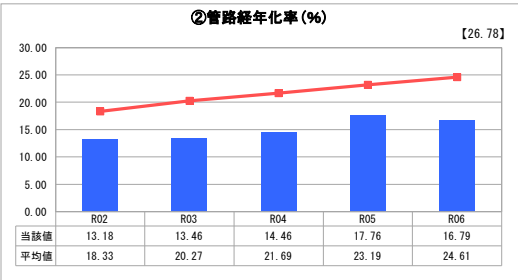
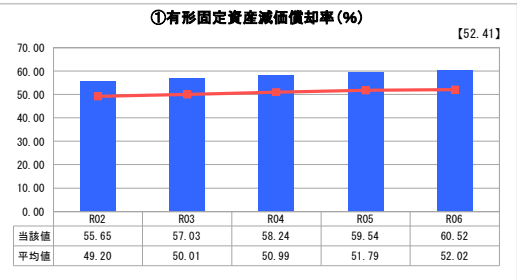
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
61,703	305.87	201.73
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
61,275	55.83	1,097.53

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度の経常収支については、100%を下回る赤字であったが、経常収支比率については改善している。これは、家庭用途以外の水量の増加による給水収益の増加と、動力費や薬品費など物価高騰の影響はあったものの水道施設維持管理費等の費用が減少したためである。料金回収率も同様に改善している。

企業債残高については若干減少しているものの依然として類似団体と比較して高い水準にあることから、企業債の元金及び利息の償還が経営を圧迫していると考えられる。

有収率については、類似団体平均値に比べ良い数値となっており、引き続き計画的な管路更新などの対策を講じていきたい。

今後も人口減少による給水収益の減少、物価高騰による諸経費の増加、老朽化施設の更新費用増大など厳しい経営状況が見込まれていることから、安定した経営を持続するため、更なる経営の効率化とともに適正な水道料金への見直し等の料金収入確保に向けた検討が必要である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は年々増加しているが、管路経年化率については令和6年度は減少した。これは継続して実施している老朽管・給水管更新事業により管路更新率が増加したためである。

今後も更新時期を迎える管路や施設が増加することから、AI劣化予測診断結果の活用や令和7年度に実施するアセットメントマネジメントの更新から、更新年度の見直しや、更新管路の優先順位の再検討を行う。また、ダウンサイジングや耐震化についても進めながら、投資の平準化を図り、持続可能な施設の更新を実施していく。

全体総括

人口減少による給水収益の減少、物価高騰による諸経費の増加、施設や管路の老朽化による更新費用の増大の傾向は続くことからの厳しい経営状況が大きな課題となっている。

安定した経営や、安全で良質な水の供給を継続するため、更なる経営の効率化とともに料金の改定を含む収入の適正化を図る必要がある。

中長期的な計画に基づき計画的な施設の更新を行うために、優先順位の検討、ダウンサイジングによる経費の圧縮など収支バランスの改善に向けた適切な投資を図っていきたい。